

発達特性

岩崎寿史

おかざきよろず心のクリニック
院長

いわさき・ひさし 1986年東京大学
法学部卒業。2003年名古屋大学医
学部卒業。2007年名古屋大学医学
部附属病院精神科入局。2008年より
特定医療法人共和会共和病院に勤
務。2010年より同病院医局長を務め
る。2016年「おかざきよろず心のク
リニック」開院、院長を務める。精神保健
指定医、精神科専門医・指導医。日本
小児精神神経学会認定医、子どものこ
ころ専門医、日本医師会認定産業医。



発達障害ではなく発達特性 ほめて育む自己肯定感が自立への力に

自分の子どもが「発達障害」と診断されると、多くの親は悩み、
落ち込むことが少なくない。しかし、それを子どもの個性や特性と
捉え、前向きに考えていけば、社会に出て自立するきっかけになる
という。

世界で活躍した著名人も
自閉症スペクトラム症？

「発達障害」とは、乳幼児期に発症
する広範な脳機能の異常である。そ
の症状は多岐にわたり、社会性に欠
け、コミュニケーションが苦手な
「自閉スペクトラム症（ASD）」、
落ち着きがなく注意力が持続しない
「注意欠如・多動症（ADHD）」、
文字が読めない、算数が理解できな
いといった「限局性学習症（SL
D）」、手先が不器用で運動が苦手な
「発達性協調運動症（DCD）」など
が含まれる。これらの症状が単独で
現れることもあれば、複合的に現れ
ることもある（下図参照）。

子どもが発達障害と診断される

最後まであきらめないで！

- 子どもはかわいいことを思い出して！
- 子育ては大変、ゆとりを作り出そう！
- 子育てすると、親も人として、親として育てられる。

と、親が不安を感じるのは当然であ
る。しかし、おかざきよろず心のク
リニックの岩崎寿史院長は、「障害
ではなく、その子を持つ特性として
捉えてほしい」と語る。小児科では
「発達障害」と呼ばれることが多い
が、精神科では「発達特性」という
表現が一般的になりつつあるとい
う。

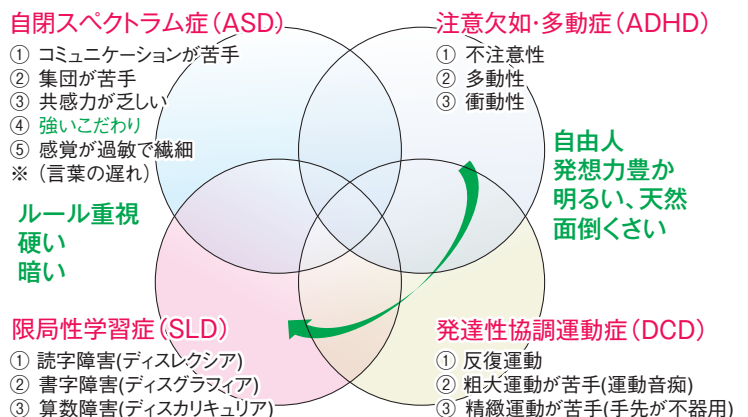
「親が子どもの特性を受け入れるこ
とで、子どもは日常生活や社会生活
をより快適に過ごせるようになるこ
とが多いです。効果的なのは、親が
子どもをほめること。短所を長所と
して見直し、接し方を変えることも
重要です」（岩崎医師、以下同）。親
や周囲の態度が変わるだけで、症状
が軽減し、投薬などの積極的な治療
をせずに改善するケースもあるとい
う。

「発達特性を持つについても、社会的
に成功した人は多く存在する。例え
ば、モーツァルトやアインシュタイ
ン、エジソンも、自閉スペクトラム
症を持っていたと伝えられていま
す」

発達特性を持つ子どもは、数学や
科学、音楽、芸術、スポーツといっ
た特定の対象に強くこだわる傾向が
あり、それが子どもの成長にとって
理想的である。

「その興味を自立の足がかりとし、

発達特性相関図



場合によってはその道で成功する可
能性もあります。親がそのような対
象と出会わせることが、最高の支援
なのです。また、日本では子育てが
母親中心になりがちですが、父親が
どれだけ関わるかで、子どもの心の
安定に大きな違いが生まれます。夫
婦仲が良ければ、自然と教育の方針
も一致し、無駄に叱る場面も減るで
しょう。教育には過度な叱責は不
要。夫婦で協力し、しっかりとコミ
ュニケーションをとりながら、一緒
にお子さんを支えてあげることが大
切です」